

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に建っています。北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことのできる環境の中で、心のみゆつくりゆったりとした時間を過ごす事ができます。天気の良い日には、敷地内や近くの公園まで散歩をするなどゆったりとした生活をされています。近隣の方々のご理解ご協力に支えられ「その人と共にある」を常に心に持ち、ご家族様、近隣の皆様と連携を取りながら職員一同入居者様や地域福祉の為に日々努力しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 2月 19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複合施設で関連する事業所が近隣に点在しているため、入居者の情報を共有し施設した場合などネットワークで未然に防ぐ仕組みが作られている。専門の調理員が毎日昼夜の食事やおやつを手作りし、利用者の食べたい物を聞いて、ちらし寿司やそばろ井、漬け井等を提供し食事の楽しみを創出している。感染対策にも力を入れ面会は窓越しなど条件付きで行い、職員のPCR検査や抗原検査もやっている。地域との連携が取れ施設と別棟の建物で感染対策をして運営推進会議を行い、今後は防災にも協力体制ができる予定である。管理者は日頃から介護業務を兼任し職員の意見を聞く機会があり、コミュニケーションが取れている。また、職員が講師となりユニット会議で講習を行いスキルアップを図っている。今年度から利用者家族にアンケートを行い、要望を聞き運営に反映できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただき、それぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同が日々取り組んでいます。	理念は事務所入口やフロアに掲示し、管理者は数か月に1度、職員に内容を確認している。理念に基づいた個人目標を立てることを計画し、管理者は日常業務の中で職員に声をかけ、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などの情報を取り入れなるべく参加できるようにしています。地域運営推進会議に町内会長や民生委員近隣住民の方に参加していただき情報の共有に努めております。	コロナ禍で地域行事は中止されているが、もともと地域とのつながりがあり、地域の協力は得られる環境で事業所の祭などには多くの地域住民が来所していた。運営推進会議委員の区長や隣の町内会長は積極的に事業所と関り、交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風や河川氾濫などの災害時、同法人所有の建物に避難住民を受け入れるよう町内会や隣接している函南町間宮地区との連携を強めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、ヒヤリハット及び事故報告などさせていただき、参加者からのご意見をいただきより良いケアができるようサービスの向上につなげています。	開催は近くの別棟で、入退去状況や行事、利用者の様子や事故報告、ヒヤリハット等を報告し、区長、町内会長、地域住民、地域包括支援センター職員から活発な意見交換がなされている。次年度から家族にも議事録を送付し参加を促す予定である。職員は議事録を回覧しサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加していただき、意見や情報を頂戴するほか年4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し情報交換や情報共有を行ったり、介護の日の写真展示なども行っています。	地域包括支援センターの職員とは利用者の家族の対応の相談や入居者の紹介等つながりがある。三島市のグループホーム連絡会が年に4回行われ、意見交換や情報共有を行ったり、三島市のグループホーム紹介の写真展にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員により各事業所の取り組みを話し合いその後各事業所にフィードバックして研修を開催しております。身体拘束廃止マニュアルを準備し、やむをえない場合には主治医・看護師・職員・ご家族との話し合いを行いご家族より同意をいただくようにしています。	身体拘束廃止についてのマニュアルは整備され、委員会は法人全体で行われ、3か月に1回開催されている。各施設から1名職員が参加し、委員会の内容に基づいて研修をユニット会議で行っている。	

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しても、委員会を設置しチェックシートを職員に配布し高齢者虐待防止の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を申請するため、三島市の成年後見支援センターと連絡を取り、申し込みの準備をしています。キーパーソンから問い合わせがあったとき等成年後見センターとの間に入りスムーズに話ができるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ち会える方のみ)ご家族に同席いただき、契約書・重要事項説明書・その他の書類を説明させていただき、入居してからの不安や不満が出ないようにしております。制度改正による変更があった場合は変更の同意書にサインをいただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、法人として利用者家族にアンケートを送らせていただきご家族からの要望に応えるようにしています。コロナ禍で面会をお断りすることも多かったため毎月の手紙や管理者からの電話などで入居者の様子を伝えるようにしています。	前回の外部評価で指摘されたアンケートを法人全体で行い、家族からの要望や意見を聞き運営に反映している。面会を制限する中、毎月写真にコメントをつけて利用者の様子を家族に伝えたり、管理者が電話で様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、要望や問題解決を法人会議で話し合い反映するようにしています。	管理者は日常業務の中で職員に声かけを行い、職員との意思疎通をはかっている。職員は直接法人に意見や提案ができる。設備面で職員から要望があると管理者は法人に伝え職員が働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談や個人の思いを聞き、事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内のミニ研修で介護技術などのスキルアップを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の研修場所を提供して研修を受ける機会を確保するとともに、職員会議でのミニ研修の講師を交代で行いスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行ったり、感染症対策などを三島市のグループホーム全体で取り組むようにしています。来年度に向けて認知症の研修なども行っていく予定です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に話を聞かせていただき、不安なこと困っていること等要望を聞かせていただき、安心で安全な環境を提供するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談時にご家族の困っていること要望等を聞かせていただき、入居後も連絡をこまめに言い信頼関係を気付くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談時に伺った情報をもとに必要な支援を行うことで、安心安全な生活をしていただけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり常に尊厳の気持ちをもって接するようにしています。できることやお手伝いもしていただき、難しいことは支援してお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、入居者様の様子を居室担当が手紙に書き、写真を添えてご家族の皆様へ伝えるようにしています。コロナ禍で面会もできないことが多かったため、管理者より電話にて変化を伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で一番難しい問題となっています。面会も制限をしたり禁止であったりご家族以外の方と顔を合わせる機会がほとんど持てていません、	コロナ以前は家族以外にも知人や友人の訪問があり、地域の行事にも積極的に参加し、関係を継続していた。コロナ禍であっても制限された中で関係が途切れないよう支援を模索している。	

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様の個性や生活歴、その時々 の状況、相性などを考え、職員が調整役とな り入居者様同士が支えあい助け合えるよう な支援ができるよう努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が安心安全 に過ごしていただいているか退去後の様子 をご家族に伺ったり、お困りの際には相談に 乗るようにさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	今までの生活となるべく変わらぬように居室 の家具の配置を変更したり、安心安全に過 ごせるよう工夫しています。 居室には名札を付けご自分の部屋と確認で けるようにし、トイレには廊下に出るとわかる よう表示を設置して不安を軽減できるよう工 夫しています。	入居前にフェイスシートを作成し、入居後1週 間の様子を気づきシートに記入して、利用者 の思いや意向を把握している。その後もユ ニット会議で出された職員の気づきを加えて フェイスシートを更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居者の皆様との会話やコミュニケーション の中から今までの生活やなじみの暮らしを 教えていただき、ご家族様からも生活歴など の情報をいただき把握するよう努めておりま す。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察したり、 介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員 間で情報共有することになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	日頃からご本人様の気持ちを考え、ご家族 様の意向を伺い、毎月行う職員会議の中で 看護師を交え、居室担当を中心として話し合 いを行い日頃の気づきを介護計画に反映す るようにしています。	ユニット会議で利用者のカンファレンスを行っ ている。また、担当職員を中心にモニタリング を行い、「業務日誌」「介護経過記録」を参考 にして、医師や看護師の意見を聞いて介護計 画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・体調管理表・排泄記録表等で日 頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を 記録し、申し送りノートを活用して情報共有 を行い介護計画の見直しに役立てていま す。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々生まれるニーズに対応して、法人全体で対応して、可能な範囲で柔軟に支援が行えるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の方々の受け入れや行事などがほとんど中止になってしまったため難しい面が多々ありますが、職場体験や実習生の受け入れを積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様、ご家族様の医療に対しての要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療医に変更していただき、適切な医療を受けられるように支援しています。	ほとんどの利用者が月に2回協力医の往診を受けている。協力医は24時間対応で他科の初期対応や専門医の紹介も行う。入居前のかかりつけ医の対応は家族が行い、歯科受診も定期的に往診がある。施設の看護師が週3回訪問し、協力医と連携をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、職員会議に参加し気づいたことを報告してアドバイスをもらったり訪問医と連携を取り適切で迅速な対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応や体制を説明し、連携を取りながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。 終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいております。	入居時に重度化、終末期の施設の方針を説明し、「医療等に関する意見確認書」に意向を記入してもらい。状態変化時には、主治医、家族、看護師、職員で話し合い方針を決め、支援している。職員は終末期や看取りに備え、資料の確認や看護師の助言を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員による訓練を実施しています。	6月11月を目安に年2回地震、火事、水害想定訓練を行い、職員はAEDや発電機の取り扱いも身に付けている。水害時の垂直移動は早めの対応を心掛け、備蓄は法人と施設独自でも準備している。運営推進会議で話し合い、避難体制については地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声掛けを行い受容の心で支援させていただいております。	会議内で個人情報やプライバシー保護の研修を行っている。管理者は半年に1度、日常業務での気づきを資料にして職員に提供し、声かけや人格を尊重した対応について熟知できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを聞き取り体操・レクリエーション等も取り入れご希望に沿った支援を心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出できる機会がほとんどありませんが、2か月に1度の訪問理容でヘアカットを行い、衣類を選んだりその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はゼロックを利用し、昼食・夕食はほとんどの日を調理員による手作りで食事を提供しております。おやつも以前は買ったものがほとんどでしたが、現在は調理員による手作りのおやつを提供しております。毎月1度は、お楽しみ食事を開催しております。	昼夕食はほぼ毎日調理専門の職員が作り、手作りおやつも提供している。月に1回のお楽しみ食は利用者の希望を聞いて提供している。今年度は法人施設内でサツマイモを収穫しおやつで味わった。利用者にはおしぼり巻き、玉ねぎの皮むき、おはぎ作りケーキ飾り等に取り組んでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録し、水分摂取の少ない方にはゼリーを作り召し上がっていただいております。身体状況に合わせ、普通食・キザミ食・ペースト食の対応をしております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを行っていただいております。出来る方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後お預かりさせていただき洗浄剤で消毒を行っています。2名の方が訪問歯科で口腔ケアや義歯の調整を実施しています。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情に注意を払い誘導するなどの自立に向けた支援をさせていただいております。	業務日誌、排泄管理表に利用者個々の排泄状況を記録し、把握している。自立の利用者には見守りながら時間誘導の場合は無理強いをせず個々に合わせた対応をしている。時には医師に相談をしたり、水分摂取に気をつけている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、体操への声かけや主治医への相談等でここに合わせた予防に取り組んでおります。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しております。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応しております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応しております。	週に2回、入浴剤を使用して楽しく入浴してもらえるように心掛けている。拒否のある利用者には時間や声のかけ方、誘導する職員を変えたり工夫して柔軟に対応している。お風呂好きな利用者は長湯にならないように気をつけ、シャワー浴や足浴なども取り入れている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は入居者様の体調や習慣に合わせて、必要に応じて居室で休めるよう環境づくりをしています。夜間気持ちよくお休みいただけるようリネン類の洗濯や布団干しを定期的に行っております。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者の個々の譲許に合わせて行っております。新しく処方された薬に関しては、体調の変化など注意深く観察し記録に残し、主治医や看護師に報告しています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせて、洗濯物干し・洗濯物たたみ・おしぼり巻き等出来ることを手伝っていただいております。ストレスの解消に散歩や体操に参加していただいております。	

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会がほとんど持たず、建物の外に出るのは敷地内の散歩や近隣の公園への散歩を楽しまれています。	コロナ禍で思うように外出ができない中、施設の隣の広い敷地で季節を感じる木々や草花を眺めることができ、昨年はサツマイモを植え、手作りおやつに利用している。感染対策を取り車中ドライブも行っている。	敷地が広いので今年度取り組んだことを継続し有効利用をしてください。野菜や花を育てたり、収穫を楽しんだりと外出の機会に利用されることを望みます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居なさる際にご家族にトラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持はお断りしています。但し所持していないことで不穩になる方もいるため最低限の金銭を所持することは許可しています。必要な日用品などは、預り金や立替えも対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙はご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいております。清掃をこまめに行い、清潔で明るく現在は定期的な消毒で感染症にも気を配り居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。	感染対策に注意して、清掃、消毒、換気を定期的に行い、利用者もモップがけの手伝いなどをしてくれる。利用者と職員で季節を感じる作品を作り、掲示したり、陽当たりの良い居間からは大場川の土手を散歩している人が見え、外気浴を楽しみながら季節を感じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ、簡易ベッドを置き、お好きな場所で過ごしていただき、入居者の相性により定期的な席替えを行い会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族に依頼し、使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき居心地の～空間づくりを工夫しております。	居室にはクローゼットが備え付けられ、自宅から衣装ケース、家族の写真、テレビなどを持ち込み、利用者の動線を考え配置している。コロナ前は季節の衣替えは家族にお願いしていたが現在は居室担当が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え居室内の様態替えを行い自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示などで入居者が迷わないよう工夫しております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600493		
法人名	有限会社 富南		
事業所名	グループホーム富南の郷里		
所在地	静岡県三島市安久660番地の10		
自己評価作成日	令和4年1月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム富南の郷里は、伊豆の玄関口三島市の最南端に位置し函南町と隣接した場所にあります。「豆州志稿」の秋山富南が生まれ育ったおよそ3000坪の敷地の中に建っています。北方には富士山を望み、東方には箱根連山を見渡すことのできる環境の中で、心のみゆつくりゆったりとした時間を過ごす事ができます。 天気の良い日には、敷地内や近くの公園まで散歩をするなどゆったりとした生活をさせています。近隣の方々のご理解ご協力に支えられ「その人と共にある」を常に心に持ち、ご家族様、近隣の皆様と連携を取りながら職員一同入居者様や地域福祉の為に日々努力しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2270600493-00&ServiceCd=320&Type=search

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 2月 19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある、その人らしさ・ゆったりとした空間とゆっくりとした時間を提供させていただき、公平・平等に尽くさせていただき、それぞれの利用者様の第3の人生の生きがいを共に歩む介護を目指し、職員一同が日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、行事などの情報を取り入れなるべく参加できるようにしています。地域運営推進会議に町内会長や民生委員近隣住民の方に参加していただき情報の共有に努めております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	台風や河川氾濫などの災害時、同法人所有の建物に避難住民を受け入れるよう町内会や隣接している函南町間宮地区との連携を強めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の現況や活動報告、ヒヤリハット及び事故報告などさせていただき、参加者からのご意見をいただきより良いケアができるようサービスの向上につなげています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加していただき、意見や情報を頂戴するほか年4回三島市のグループホーム連絡協議会に出席し情報交換や情報共有を行ったり、介護の日の写真展示なども行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関しては、法人内に委員会を設置し、参加した職員により各事業所の取り組みを話し合いその後各事業所にフィードバックして研修を開催しております。身体拘束廃止マニュアルを準備し、やむをえない場合には主治医・看護師・職員・ご家族との話し合いを行いご家族より同意をいただくようにしています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関しても、委員会を設置しチェックシートを職員に配布し高齢者虐待防止の意識を高めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を申請するため、三島市の成年後見支援センターと連絡を取り、申し込みの準備をしています。キーパーソンから問い合わせがあったとき等成年後見センターとの間に入りスムーズに話ができるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人(立ち会える方のみ)ご家族に同席いただき、契約書・重要事項説明書・その他の書類を説明させていただき、入居してからの不安や不満が出ないようにしております。制度改正による変更があった場合は変更の同意書にサインをいただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、法人として利用者家族にアンケートを送らせていただきご家族からの要望に応えるようにしています。コロナ禍で面会をお断りすることも多かったため毎月の手紙や管理者からの電話などで入居者の様子を伝えるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員会議や個人面談で職員の意見や提案を聞き、提案や問題解決を法人会議で話し合い繁栄するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時の面談や個人の思いを聞き、事業所運営に役立てるようにしています。ユニット会議内のミニ研修で介護技術などのスキルアップを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修の研修場所を提供して研修を受ける機会を確保するとともに、職員会議でのミニ研修の講師を交代で行いスキルアップを図っています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換を行ったり、感染症対策などを三島市のグループホーム全体で取り組むようにしています。来年度に向けて認知症の研修なども行っていく予定です。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人に話を聞かせていただき、不安なこと困っていること等要望を聞かせていただき、安心で安全な環境を提供するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や面談時にご家族の困っていること要望等を聞かせていただき、入居後も連絡をこまめに言い信頼関係を気付くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規入居者には、相談及び面談時に伺った情報をもとに必要な支援を行うことで、安心安全な生活をしていただけるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の皆様は人生の先輩であり常に尊厳の気持ちをもって接するようにしています。できることやお手伝いもしていただき、難しいことは支援してお互いに助け合って生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付する請求書の中に、入居者様の様子を居室担当が手紙に書き、写真を添えてご家族の皆様へ伝えるようにしています。コロナ禍で面会もできないことが多かったため、管理者より電話にて変化を伝えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で一番難しい問題となっています。面会も制限をしたり禁止であったりご家族以外の方と顔を合わせる機会がほとんど持てていません、		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様の個性や生活歴、その時々 の状況、相性などを考え、職員が調整役とな り入居者様同士が支えあい助け合えるよう な支援ができるよう努力しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の 経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先での生活(サービスを含)が安心安全 に過ごしていただいているか退去後の様子 をご家族に伺ったり、お困りの際には相談に 乗るようにさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	今までの生活となるべく変わらぬように居室 の家具の配置を変更したり、安心安全に過 ごせるよう工夫しています。 居室には名札を付けご自分の部屋と確認で きるようにし、トイレには廊下に出るとわかる よう表示を設置して不安を軽減できるよう工 夫しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居者の皆様との会話やコミュニケーション の中から今までの生活やなじみの暮らしを 教えていただき、ご家族様からも生活歴など の情報をいただき把握するよう努めておりま す。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居者様個々の日々の様子を観察したり、 介護記録や業務日誌、カンファレンスで職員 間で情報共有することになっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	日頃からご本人様の気持ちを考え、ご家族 様の意向を伺い、毎月行う職員会議の中で 看護師を交え、居室担当を中心として話し合 いを行い日頃の気づきを介護計画に反映す るようになっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・体調管理表・排泄記録表等で日 頃の状況を把握し、介護記録に実施内容を 記録し、申し送りノートを活用して情報共有 を行い介護計画の見直しに役立てていま す。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様本人やご家族様の要望、その時々で生まれるニーズに対応して、法人全体で対応して、可能な範囲で柔軟に支援が行えるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で近隣の方々の受け入れや行事などがほとんど中止になってしまったため難しい面が多々ありますが、職場体験や実習生の受け入れを積極的に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際にご本人様、ご家族様の医療に対しての要望を伺い、継続してかかりつけ医に通院されるか、施設と連携している訪問診療医に変更していただき、適切な医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が週3回健康チェックを行い、職員会議に参加し気づいたことを報告してアドバイスをもらったり訪問医と連携を取り適切で迅速な対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院と連携を取り実際の状態の把握に努め、情報を提供していただき、施設での対応や体制を説明し、連携を取りながら早期退院につながるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の在り方について自施設の指針を説明させていただいております。 終末期には、主治医・ご家族様・看護師・職員で話し合いを行い、ご本人様・ご家族様のご意向に沿えるよう支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応するようマニュアルを用意し、入居者様の急変時や事故発生時に全職員が応急手当や初期対応ができるよう日頃から準備しています。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設として年2回以上の災害時の訓練を実施し、地域との協力体制を築いています。また緊急連絡網を作成し、通信・連絡の職員による訓練を実施しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライドやプライバシーを傷つけないよう温かい声掛けを行い受容の心で支援させていただいております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく、表情や動作をよく観察し、ご本人様の思いを受け止め、一人一人のご要望や自己決定ができるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースや思いを大切に、一日をどのように過ごしたいかを聞き取り体操・レクリエーション等も取り入れご希望に沿った支援を心がけております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍で外出できる機会がほとんどありませんが、2か月に1度の訪問理容でヘアカットを行い、衣類を選んだりその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はゼロクックを利用し、昼食・夕食はほとんどの日を調理員による手作りで食事を提供しております。おやつも以前は買って来たものがほとんどでしたが、現在は調理員による手作りのおやつを提供しております。毎月1度は、お楽しみ食事会を開催しております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事摂取量と水分量を記録し、水分摂取の少ない方にはゼリーを作り召し上がっていただいております。身体状況に合わせ、普通食・キザミ食・ペースト食の対応をしております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを行っていただいております。出来る方はご自分で、できない方はお手伝いさせていただいております。義歯は夕食後お預かりさせていただき洗浄剤で消毒を行っています。7名の方が訪問歯科で口腔ケアや義歯の調整		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表をつけ、入居者様個々の排泄パターンを把握し、時間での声かけや表情に注意を払い誘導するなどの自立に向けた支援をさせていただいております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し、体操への声かけや主治医への相談等でここに合わせた予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴の機会を提供しております。体調等により日にちの変更や時間の変更の対応をしております。状況により時間を問わずシャワー浴・手浴・足浴の対応をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は皆さん思い思いにリビングにてテレビを見たり体操やレクリエーションに参加して過ごしております。夜間気持ちよくお休みいただけるようリネン類の洗濯や布団干しを定期的に行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援・服薬介助を入居者の個々の状況に合わせて行っております。新しく処方された薬に関しては、体調の変化など注意深く観察し記録に残し、主治医や看護師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の状態に合わせ、洗濯物干し・洗濯物たたみ・おしぼり巻き等出来ることを手伝っていただいております。ストレスの解消に散歩や体操に参加していただいております。		

静岡県(グループホーム富南の郷里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出の機会がほとんど持てず、建物の外に出るのは敷地内の散歩や近隣の公園への散歩を楽しませております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居なさる際にご家族にトラブルのもとになることをご理解いただき金銭の所持はお断りしています。但し所持していないことで不穩になる方もいるため最低限の金銭を所持することは許可しています。必要な日用品などは、預り金や立替えも対応		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、各フロアや事務所から電話をご利用いただけます。手紙はご希望により年賀状やお手紙の支援をさせていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう入居者の皆様で壁紙づくりをしたり、窓からや外に出て自然の景色を楽しんでいただいております。清掃をこまめに行い、清潔で明るく現在は定期的な消毒で感染症にも気を配り居心地の良い環境づくりに取り組んでおります。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやいす、ソファ、簡易ベッドを置き、お好きな場所で過ごしていただき、入居者様の相性により定期的な席替えを行い会話を楽しむ空間づくりを心がけております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族に依頼し、使い慣れたものやお気に入りのものを持ってきていただき居心地の～空間づくりを工夫しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え居室内の模様替えを行い自立支援のお手伝いをさせていただいております。居室の名札やトイレの表示などで入居者様が迷わないよう工夫しております。		